

ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第8号

2011.6

「自閉症スペクトラム」

解説者 医師 山元 美和子

今回は、児童思春期に関連した疾患として自閉症スペクトラムについてのお話です。

自閉症スペクトラムとは？

スペクトラムとは「連続体」の意味です。自閉症の特性の現れ方は様々で、重い知的障害を伴い意思疎通がきわめて難しい人から、表面的な関わりではその困難さがほとんど気づかれぬ人までその状態像が幅広いことからスペクトラムといわれるようになりました。アスペルガー一症候群、自閉症、特定不能の広汎性発達障害などの疾患を含めて指す言葉です。これらの疾患は自閉症の度合いの強さの濃淡が違うひとつらなりの疾患と考えられています。光のスペクトラムのように正常から自閉症の度合いが強い方までその症状の度合いがひとつらなりになっているという意味です。原因は生まれつきの脳の特性によるもので、親の育て方や愛情不足によるものではありません。だいたい日本人の100人に1人が自閉症スペクトラムであると考えられています。

自閉症スペクトラムの人は三つ組みの特徴をもちます。簡単には以下のようなものです。ただし、中には以下の例があてはまらない子どもさんもいます。

①対人関係(社会性)の障害

他者との交流がスムーズに行かないという意味です。人の気持ちを察することや、他者の立場になって考えることが苦手です。例えば・・・

- ・相手が傷つくということに気づかず、悪気はないのだが、太った人を見て「あの人太っているね」と言ってしまう。
- ・大人とはうまくいけれど、同年代の子ども(特に集団の場合)と波長があわない。
- ・暗黙のあいまいなルールが自然には分からない。

②コミュニケーションの障害

言葉は話せますが、状況を読み取ったり、スムーズな言葉のキャッチボールをするのが苦手です。例えば・・・

- ・場にそぐわない丁寧すぎる言葉を使ったり、アナウンサーのように模範的なしゃべり方をします。
- ・自分の興味のあることを一方的に話したり、話が飛んだりする。
- ・言葉を字義通りに解釈してしまい、裏の意味を読み取ったり、比喩を理解するのが苦手である。
- ・相手の表情の意味を読み取ること(例えば表情を見て「イヤだと思っているな」と判断すること)が苦手である。
- ・視線や表情や身振り、相手との距離などが自然でない。

③想像力の障害(こだわり)

いつもと違う状況を苦手と感ずみます。また、興味の対象が限られていることがあります。例えば・・・

- ・いつもと同じ道を通って行かないと混乱してしまう。
- ・ミニカーなど同じものでばかり遊び、他のものに興味を示さない。
- ・急に予定が変わると混乱してしまう。
- ①・②・③以外にも以下のような特徴がある場合があります。
- ・感覚の過敏さ(音、まぶしさが苦手、臭いに敏感等)と鈍感さ(痛みに気づきにくい等)
- ・手先の不器用さや、バランスの悪さ等の運動の苦手さ
- ・驚くような記憶力
- ・多動、チック
- ・睡眠のトラブル(不安定さ)

これらの脳の特徴から自閉症スペクトラムの方は自然にぱっとその場の状況を読み取ったり、その場に即した行動をとることがむずかしいという特徴があります。しかし、全くできないということではなく、自然にぱっとはできないということなので、そのコツを学ぶことができればできるようになります。そのコツをつかみやすくしたり適応的な行動を増やすために、その子それぞれに合ったやり方で具体的な言葉で教えてあげたり、療育を行ったり、視覚的な支援をすることが必要です。支援を組み立てるには、まずはお子さんにいちばん近い存在の保護者の方がお子さんの特徴を知ることが大切ですが、それと同時に専門機関(医療、福祉など)による支援を受けることが大切です。相談できる機関は佐賀にもいろいろありますので、主治医や発達障害者支援センターなどに尋ねてみて下さい。

前述しましたように、自閉症スペクトラムの方のなかには知的に高く一つのことをとことん探求するというその能力を生かした有名人もたくさんいます。たとえば物理学者のアインシュタイン、マイクロソフト社の会長ビル・ゲイツ、音楽家のモーツァルトなどは自閉症スペクトラムなのではないかと言われています。最近では映画やドラマ、漫画などでも自閉症スペクトラム関連の主人公をとりあげたものがあります。特に啓発を意識したものではありませんが、個性のある主人公が社会に適應していく姿を描いており、イメージをつかむにはわかりやすいかもしれません。たとえば、「光とともに」という漫画、それを原作とした篠原涼子主演のTVドラマ、映画ではダスティン・ホフマン主演の「レインマン」や、「モーツァルトとクジラ」、ジョニー・デップ出演の「ギルバート・グレイブ」などがあります。

将来のために

障害の程度に関わらず子どもさんが将来社会に適応し自立するためには、以下のことがまず重要と患者さん方から教えられます。

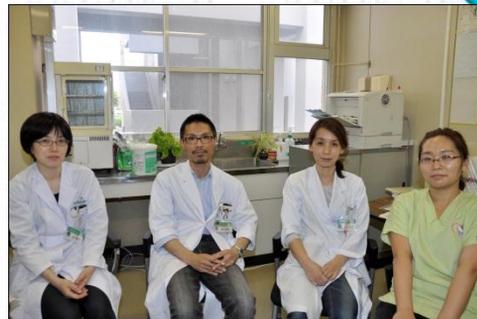
○自尊心が育つこと

自尊心とは自分を尊敬する気持ち、大切にすることを大切にすることです。これは幼少期からの褒められた体験の多さや、自信をつける機会の多さによって左右されます。周囲に特徴が理解されず、叱られてばかりでは自尊心は育ちません。また、ご両親や家族が仲良く助け合っている姿を間近で見ることも自分のことを大切に思う心を育てるためにとても大切なことです。

○心的なトラウマ(心の傷)が軽いこと

自閉症スペクトラムの子供たちはその障害の特性からみても、学校など集団生活を乗り切るのに困難を抱えることがあります。自分が困っていることに気づけなかったり、SOSをうまく出すことができないこともあります。集団場面でのきつかった体験が心の傷になり、これがのちに「うつ病」などの二次障害につながる可能性があります。このことが成人になってからの社会適応を極めて困難なものにすることがあります。

これらのことが明らかになってきた経過のなかで、周囲がその子の特徴を早めに理解し共通理解のもと支援していくために、自閉症スペクトラムの診断を幼少期に行うとくみ全国的になされるようになってきています。一方で、成人になって周囲や本人の希望で受診診断される方もいらっしゃいます。診断されたら就労支援を含めた以下のような福祉的な相談機関や、市販されている書籍、日本自閉症協会 <http://www.autism.or.jp/> やNPO法人 アスペ・エルデの会 <http://as-japan.jp> などのインターネットのサイトなどでも情報を集めてみてください。



『発達障害者支援センター』

幼児の療育から大人の就労まで幅広く相談にのってくれます。養育上の親の悩みの相談もできます。

佐賀県発達障害者支援センター「結」

TEL0942-81-5728

『児童相談所』

療育手帳などの福祉援助を希望する場合や地域の支援組織の情報を手に入れたい場合に利用できます。また、家庭の事情で親が子どもを育てることができなくなる場合や法律に触れるような非行の問題にも相談にのってくれます。

『障害者就業・生活支援センター』

障害のある方の就職に向けた相談・支援を行います。

鳥栖市 ももしネット TEL0942-87-8976

『障害者職業センター』

自閉症スペクトラム、知的障害、精神障害のある人たちの就労に関する職業アセスメントと相談に応じてくれます。佐賀市TEL0952-24-8030

民間の支援機関

《NPO法人 それいゆ》佐賀市 自閉症スペクトラム全般を幼児から成人までサポートしてくれます。

<http://npo.autism-soreiyu.com/>

《NPO スチューデント・サポート・フェイス》佐賀市 不登校、引きこもり、非行など、不適応問題を抱える子供達やニート・フリーターなどを対象としています。

<http://www1.odn.ne.jp/faith1019/act.htm>

《アナザープラネット》カウンセリングや個別指導が受けられます。

武雄市 TEL0954-28-9056

<http://anotherplanet.sagafan.jp/>

肥前リニューアル計画

【思春期病棟(東二-1病棟)】

20才未満の不登校やひきこもり・虐待など、学校や家に適応できなかったり、生活環境を変える必要のある子どもさん、さらには発達の問題や精神的な疾病で苦しんでいる子どもさんを対象としています。これら児童精神科医療を必要とする子どもたちは増加し、ますます多様化していますので、これに対応するため今回の整備では開放ユニット、閉鎖ユニット、保護室ユニットの各ゾーンに分け、個室の確保も行う予定です。

【一般精神科 他 病棟(西二病棟)】

慢性統合失調症の患者さんを中心に社会復帰を目標とした身体機能、生活意欲の維持、向上に向けた治療(集団作業療法・生活技能訓練)に取り組んでいます。様々なニーズや患者特性に対応できるようにするため、ハイケア準閉鎖ゾーンや個室の確保を行う予定です。

【一般精神科病棟(男女混合)(西三病棟) 二階】

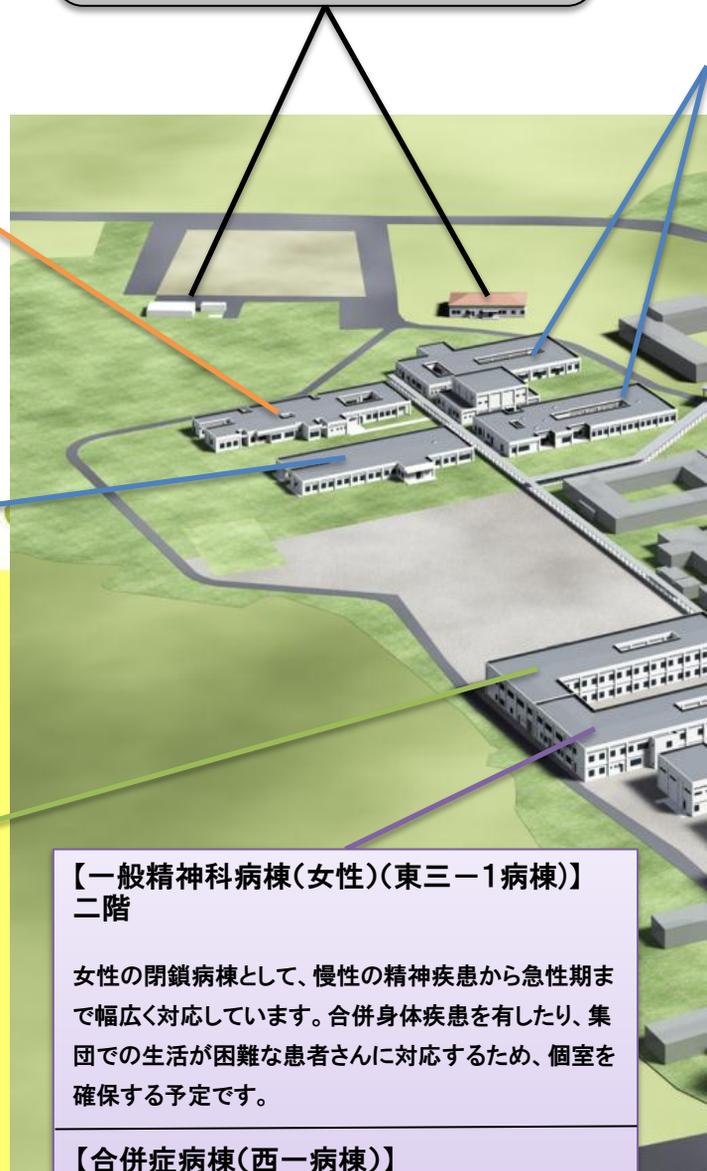
慢性精神疾患の治療にあたる閉鎖病棟で、20代から60代までの患者さんの日常生活援助、精神科リハビリテーションを中心に行っています。合併身体疾患を有したり、集団での生活が困難な患者さんに対応するため、個室を確保する予定です。

【認知症病棟(東四-1病棟) 一階】

高齢の患者さんを対象に、徘徊、不眠、妄想、せん妄などの認知症の周辺症状のために家庭や一般病院、施設での介護、治療が困難な方に対し、精神的にその原因の精査及び治療を行っています。診断のための入院や介護負担を軽減するためのショートステイも行ってます。また、多様化する患者さんに対応するために個室を確保し、家族支援のための宿泊ユニットを併設する予定です。

【院内保育所・総合污水处理場の整備】

老朽化が著しい院内保育所、総合污水处理場についても、今回新築整備する予定です。



【一般精神科病棟(女性)(東三-1病棟) 二階】

女性の閉鎖病棟として、慢性の精神疾患から急性期まで幅広く対応しています。合併身体疾患を有したり、集団での生活が困難な患者さんに対応するため、個室を確保する予定です。

【合併症病棟(西一病棟) 一階】

精神疾患に様々な身体疾患を合併した患者さんの治療と看護を行っています。また結核を合併した患者さんのためのユニット(4床)を有しています。今回の病棟再編成にあたり、他病棟からの患者さんの受け入れがスムーズに行われるように、認知症病棟と一般精神科病棟との一体的な整備を予定しています。

《病棟建替概要》

現在の病棟は、一般精神414床を8ヶ病棟、医療観察法33床を1ヶ病棟、重症心身障害児(者)80床を2ヶ病棟の計527床を11病棟で運営しています。医療観察法病棟(平成22年建築)を除いて、昭和39年から昭和50年にかけて順次建築されたもので、築45年から35年を経過し老朽化が著しくなっています。また、高齢化・重症化等により個室対応の必要のある患者さんが増加していますが、病棟スペースが狭隘で個室も少ないため、患者さんの確保や病棟運営において支障をきたしています。

今般、これらの状況を改善するため、平成23年度から平成25年度にかけて病棟等の建て替えを計画しました。

企画課長 城島賢二

【重症心身障害病棟及び療育訓練棟】

現在、重症心身障害病棟は40床の2ヶ病棟(東一病棟、東二-2病棟)で併せて80床で運用していますが、今回の重症心身障害病棟建替は新病棟50床の2ヶ病棟及び療育訓練棟を一体的に統合新築する計画です。重症心身障害病棟は80床から100床となりますが、現在当院の入院の待機患者さんは長期・短期合わせて常時20名以上おり、建替整備後に順次入院して頂く予定です。また、現在の病棟は強度行動障害に対応可能な個室が少なく、社会的なニーズに応えきれない状況であるので、今回の病棟建替においては専門的治療・療育が行いやすいモデル的構造、個室の確保などを行う予定です。

【作業療法棟】

精神科作業療法は、精神障害者の社会生活機能の回復を目的としています。専用の治療室では調理、裁縫、木工、陶芸などの屋内作業を中心に作業療法を実施しています。必要があれば病棟や屋外でも実施しますが、今回の病棟再編成整備に合わせてデイケア等の南側に隣接するように建築予定です。

【院内周回道路、渡り廊下の整備】

今回の整備にあたり、東側の院内周回道路が病棟建築により遮断されるので新しく迂回路を計画します。また、南側へ延びる病棟への接続のため中央渡り廊下を新設します。

◇病棟等建替整備工事スケジュール(平成23年5月末現在)

1. 準備工事(総合污水处理設備・保育所・周回道路・敷地造成等)
平成23年12月末 完成予定
2. 病棟設備Ⅰ期工事(重心2ヶ病棟・療育棟・ストレス病棟・児童思春期病棟)
平成24年9月末 完成予定
3. 病棟整備Ⅱ期工事(治療抵抗性2ヶ病棟・合併症病棟・認知症病棟・作業療法棟)
平成26年3月末 完成予定

※工事スケジュールは変更になる場合があります。

東日本大震災 『心のケアチーム』

「心のケア」チームとして活動して

3月末に約1週間、佐賀県「心のケア」チームとして支援に参加しました。現地(塩竈地区)に着くと、被害の状況に呆然としながらも、津波で汚れた保健所や市役所の中で懸命に働かされている保健師さん達や職員さん達には心が打たれました。私が最初に相談を受けた女性は、不眠や不安を主訴に相談に来られましたが、泣きながら、津波から必死に逃げた恐ろしさ、しかし逃げ遅れて亡くなった近所の方や子どもたちを助けてあげられなかった罪悪感、子どもが一週間行方不明になり心配をしたが、知り合いのところで助かっており安堵したこと等を語られました。私は、ただひたすら聴くことしかできなかったのですが、その方が最後に少しでも笑顔を見せながら「でも、生き残ったことはありがたいことです。これから高校生になる息子と一緒にしっかりと生きていきます。」と言われ静かに帰っていかれました。私は、その面接で、被災された方々は、このような何とも言えないような恐怖感や安堵感や罪悪感の入り混じった複雑な思いをじっと抱え苦しんでおられ、その心情を時間をかけてしっかりと聴いてもらう必要があり、また受けとめてもらう必要があるのだとつくづく思いました。今後も、「心のケア」の支援は、時間はかかりながらも継続していく必要性を感じました。

医師 原田聰志



◀メンバー表▶

派遣期間	医師		看護師	心理士・療育指導員		PSW	OT	事務	
3/21~3/25	久我 弘典	三ヶ田 智弘	江田 進	天野 昌太郎	-	-	-	-	-
3/26~3/30	原田 聰志	-	松本 春行	壁屋 康洋	-	-	-	-	-
3/31~4/4	木下 直俊	-	西谷 博則	中山 政弘	-	-	-	-	-
4/19~4/29	遠藤 光一	-	松尾 康志	壁屋 康洋	大賀 礼子	辻本 泰子	-	三角 正一	-
4/30~5/7	三ヶ田 智弘	-	梶原 宏造	辰野 陽子	-	-	-	武田 竜太	田中 信
5/8~5/16	宮下 聡	-	樋口 善美	中山 政弘	-	-	-	梅山 佑輔	若杉 弘樹
5/17~5/27	猪股 晋作	-	面高 康成	天野 昌太郎	-	-	-	大野 真	山口 春成
5/28~6/3	原田 聰志	-	中村 一孝	-	-	-	福井 基孔	-	-
6/4~6/10	大坪 建	角南 隆史	-	-	-	吉澤 由香利	岡田 祐輝	武田 竜太	-
6/11~6/17	三好 紀子	-	橋口 美樹	西原 礼子	-	-	平位 和寛	-	-
6/18~6/24	佐川 陽子	-	熊丸 益基	-	-	佐藤 和弘	-	-	-
6/25~6/27	橋本 喜次郎	-	-	-	-	-	-	-	大野 真

心のケアチームに参加して

平成23年3月20日~3月26日まで、心のケアチーム佐賀県の第1陣として宮城県に派遣されました。震災直後ということもあり、写真で見る戦後の焼け野原のような状況で、報道で見ていた以上に被害は深刻でした。特攻隊のような気持ちで被災地に赴きましたが、初めてのことで要領を得ない中、チームメンバーの支えが大きな7日間でした。被災に合われた方々の冥福をお祈りするとともに、少しでも今後の長期的な支援体制の助けになればと思います。

医師 久我弘典



宮城県と岩手県の支援に行かせていただいて

私は3月に宮城県に、そして5月には岩手県の支援に行かせていただきました。テレビで見るような光景が広がっている地域もありましたが、そこでお会いした方のいろいろな話や子どもたちのかかわりの中で、たくさんの笑顔を見ることができて、みなさんのパワーを感じることができました。貴重な経験をさせていただいて、ありがとうございました。

心理療法士 中山政弘

東日本大地震被災者支援を終えて

3月25日～3月31日までの7日間、宮城県北部の被災地へ佐賀県「こころのケア」チームの一員として被災者支援に携わることができました。現地では、避難所への訪問診療及び保育園・保育所での心理教室開催を中心に支援活動を行ってきました。活動を通し被災者のところに触れていく中で、被災者でありながら、支援をしている多くの方々の存在をしり『支援者のこころのケア』の必要性を強く感じました。

各活動を終えての別れ際には、過酷な状況下で限界以上に頑張っておられる被災者の方々に「頑張ってください・頑張りましょう」の言葉がいえず、ただただ「どうぞお元気で」としか言うことができませんでした。

看護師長 松本春行



心のケアチームとして岩手県宮古市で活動して

前回3/25～3/31に宮城県に被災地支援に行かせて頂き、再び4/18～4/25に岩手県に被災地支援に行かせて頂きました。前回の支援の時の心残りもあり、挽回しようと気分高揚しつつ現地に向かいましたが、現地では琉球・菊池チームが肥前チームのスケジュールを用意してくれ、巡回する避難所も決まっており、また毎夕のミーティングもあって前回より活動しやすく、落ち着いて取り組めたように思います。課題は帰佐してからの職場復帰で、皆様にご迷惑をおかけして申し訳ありません。

心理療法士 壁屋康洋



医師養成研修センターを 活用しよう！！

当院は、開院以来、65年を超える歴史のなかで多くの人材を輩出してまいりました。そのなかには、我が国の精神保健医療福祉分野におけるリーダーのひとりとして活躍された方も少なくありません。こうした当院の実績を鑑みて、2011年10月に国立病院機構では初めて「医師養成研修センター」が開設されました。医師、看護師、心理士、精神保健福祉士等々、これからの精神保健医療福祉を支えるために高度のトレーニングを受けた専門職を育成するとともに、多職種間の交流を促し、もって互いの研鑽を生涯にわたって深めようというのが、当センターの目的です。



大野裕先生



岡田俊先生

開院以来、すでに多くの講演会やセミナー、ワークショップを開催し、沢山の方々に当センターを利用していただいております。なかでも、開院記念講演を賜りました大野裕先生(慶應大学)、児童精神科医の岡田俊先生(現、名古屋大学)、アスペ・エルデの会の辻井正次先生(中京大学)のお話は印象に残っています。

今後も、是非当センターを利用していただき、精神保健医療福祉分野における優れた人材育成に役立てていただきたいと思います。当センターの利用については、管理課にお問合せ下さい。

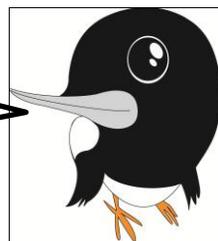
3階建ての施設の1階は約240名が収容できる多目的講演ホールであり、様々な講演会やセミナーを開催しています。2階、3階にも様々な形式の会議や講習に対応できる多数の部屋を設け、初期研修医・レジデント(後期研修医)の新医局、さらには宿泊施設まで完備しています。2階のテレビ会議室は、ITを用いた多施設共同医師臨床研修システムの中核にあり、現在、全国8ヶ所の国立病院機構内精神科領域の施設と共同してクルズスや講演会を開催しています。



辻井正次先生

医師養成研修センター センター長 黒木 俊秀

みんな、
いっぱい
使って欲し
カア～！！



ひぜんだより

長い間お疲れ様でしたm()m

～定年退職者、代表者2名からのあいさつ～

ボイラー技士長 内村光秀



私は、肥前精神医療センターの職員としてお世話になって33年になり、本年3月末をもって定年退職を迎えました。

月日のたつのは早いもので「もう30年もたつんだな」という思いです。この間には多くのすばらしい職員の方々と出会い、また接し、様々な思い出を数多く作ることができました。

私が職員としてお世話になった頃は現在の管理棟が出来上がったばかりで3階の一部に会計・庶務だけがありました。当時の医局はまだ現在の営繕棟の奥にあり、その古い木造の建物から平野先生始め、先生方が出入りされていた姿が懐かしく思われます。また、西六病棟には色々な作業班があり、職員と患者の方々が一緒に作業をされていました。特に印象的なのは、病棟の残飯を利用して豚が飼われていたことです。当時は豚舎があり、作業祭の時には、患者さん、職員全員に豚汁が振る舞われていました。また、管理棟屋上で職員同士のビアガーデンをしたり、今思えばユニークな事を色々行っていたのを思い出し、その当手を懐かしく思います。

定年という人生の節目を迎え第一線からは退きますが、これからも色々なことに挑戦していきたいと思っています。職員の皆様には大変お世話になりました。

外来看護師 神代幸子



29年前の春、精神科経験のない私は、不安を抱えて肥前療養所に再就職しました。就職してからの29年間という日々は瞬間に過ぎていったように感じます。

その間には、多くの人との出会いや学びがありました。

その中でも一番印象に残るのは、「人を変えるにはまず、自分が変わらなければ。」と指導してくださった、H看護師長の言葉です。一生懸命やっていたら心は通じると思っていた私の看護観を大きく揺さぶられるものでした。

しかし、この言葉がその後の看護の基礎となり、多くの上司、諸先輩、同僚、コメディカルの方々に支えていただくことができました。

また、出会った沢山の患者様に癒され、大好きな看護の仕事で今日まで迎えることができ、幸せな29年間でした。

今は感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも肥前精神医療センターの発展と皆さまのご多幸・ご健勝をお祈りいたします。

29年間本当にありがとうございました。

お知らせ

コスモスの会



＜案内＞

☆当院では、月に1度、DV被害者女性のためのグループミーティングを行っています。暴力・暴言等で傷ついた方の回復をお手伝いします！

☆「これってDV?」「話を聞いてみたい。話してみたい。」「少しでも辛さが軽くなる手掛かりが欲しい。」という方は是非、ご参加ください！

☆「眠れないしドキドキする。」「子供への影響が心配。」「離婚したいけど不安・・・。」等の色々な悩みについて、経験を話し合ったり、社会資源や手続きなどの情報や助言をもらえます！

＜対象者＞

当院通院中のDV被害者の女性

＜プログラムの内容＞

○DVとはどんなものか、DVを受けるとどんな影響が起こるかを資料などを使ってご説明します。

○情報提供、社会資源の案内、金銭的アドバイス等の資料を用いたミーティング。

○お茶を飲んだりしながらの、和やかな雰囲気でのミーティングです。

＜スタッフ＞

医師1名 心理士1名 精神保健福祉士1名 作業療法士1名 看護師長1名
看護師1名 支援センター職員1名

肥前バス新旧交代

病院のバスが平成23年3月から新しいバスに変わりました。従来の46人乗りの大型バスから、29人乗りのマイクロバスになりました。

大型バスは昭和61年3月に肥前に来て以来、学生さんの実習送迎・バスレク・外来・デイケア患者さんの送迎など活躍してきました。

大型バス運行中には色々なトラブルがありました。バッテリーに異常が起こり、朝から学生さん全員にバスを押してもらい、押しがけをして迷惑をかけました。クーラーが壊れ、汗だくになりながら運転したことやバスの老朽化により、天井から雨漏りがしていて、患者さんに「雨が降ってきたよ」と言われたこともありました。

大型バスも26年間、患者さんのため・学生さんのために頑張ってきましたが、老朽化はどうしてもありません。

これからは新しいマイクロバスと世代交代を行い、患者さんの送迎・バスレク等頑張りますのでよろしくお願いいたします。

車庫長 福成 勝



26年間お疲れ様でした<(_)>



第21回 佐賀県児童福祉施設作品展 堂々入賞！！



平成23年4月18日～22日の5日間、佐賀県庁県民ホールで佐賀県児童福祉施設作品展が開催されました。多くの県民の方々がご来場され、テレビでも放映されるほどの大きなイベントでした。

我が肥前精神医療センターからも重症心身障害病棟（東一病棟、東二-2病棟）、児童思春期病棟（つくし病棟：東二-1病棟）、重症心身障害児（者）B型通園「ペガサス」に入院や利用されている方たちの作品を出品しました。

療育時間を通して1年がかりで、いろいろな作品を作り上げています。どれも、すばらしい作品でしたが、その中で東一病棟の集団作品「クリスマスツリー」と東二-2病棟の牛乳パックで作った「ひな祭りサイクル」が工芸の部で特別賞をいただきました。また、絵画の部で通園利用者Aさんの「さるかに」の絵が入選し、この絵を欲しいと言う方もおられたそうです。賞をいただいたことは、作品作りの励みになっています。



療育指導室長 西原 礼子

吉野ヶ里の名所



吉野ヶ里歴史公園

今回の名所紹介は、病院が吉野ヶ里町にありながら、ご紹介していなかった「吉野ヶ里遺跡」を紹介したいと思います。吉野ヶ里歴史公園の福田さんからお話を伺いました。

(取材班):吉野ヶ里遺跡について教えてください。

(福田さん):吉野ヶ里遺跡は、我が国最大の遺跡で、弥生時代における「クニ」の中心的な集落の全貌や、弥生時代600年間の移り変わりを知ることができ、日本の古代の歴史を解き明かす上で極めて貴重な資料や情報が集まっています。

(取材班):歴史的価値の高い遺跡だと思うのですが、特に見所があれば教えてください。

(福田さん):北内郭にある祭殿と北墳丘墓は是非見て頂きたいですね。祭殿はピラミッドと同じように出来ていて、建物の4面が東西南北を示しています。それに加えて太陽の動きが分かる構造になっています。弥生時代にこのような構造で建物を作れる技術があったことの証明だと考えています。北墳丘墓では、弥生時代に造られた甕棺をそのまま展示しています。甕棺にも流行があったようで、形や色などを見ればどの時代に造られたものかが分かります。現代社会のように情報発信が出来ない状況でどのように情報が伝わっていたのか謎ですね。それに加えて墳丘墓自体の強度は現代でいうビル11階が建つ程の強度があるんですよ。弥生人は本当にスゴイですね。

(取材班):へえ!!本当に弥生人はすごいですね~!!このような名所が地元にあるのに、そんなに詳しくは知りませんでした。

(福田さん):地元の方は平成13年4月21日のオープン当初に来場されて以来、来られていない方が多いですね。最近は遠方の方が多くて、一番遠い所ではヨーロッパから来られた方もいらっしゃいましたよ。

(取材班):そんなに遠くから来られているんですね!!では最後に吉野ヶ里遺跡の魅力を教えてください。

(福田さん):やはり吉野ヶ里遺跡の魅力は、まだまだ謎に包まれているところではないかと思います。現在も発掘作業を行っていますが、2000年近く地中にあるものを急に地上に出し環境を変化させてしまうと、歴史的価値のあるものが壊れたりしてしまうため、積極的には発掘は行わずにいる状況です。そのため吉野ヶ里遺跡は謎だらけなんです。そんな謎に興味深く関心を持って頂き、来場して頂ければ弥生人の声が聞こえてくると思います。是非ご来場して下さい。

これぞ1枚!シャッターチャンス!!

香港の夜 ~百万ドルの夜景~

2011年2月10日~2月13日に香港へ行ってきました。初めての海外出張で、香港の空港に着くなり7千迷子になるなど珍道中でしたが、旧正月明けの香港はエネルギーに満ちているように感じました。研修会場にカンヅメ状態で、持参していたガイドブックは何の役にも立ちませんでしたので、今度はプライベートで観光に行きたいな!

薬剤科 藤瀬 陽子





イラスト: amano

副院長の
橋本です。

目次

- P2-5 新任者&新人紹介
P6-7 精神疾患がよくわかるシリーズ「自閉症スペクトラム」
P8-9 肥前リニューアル計画
P10-11 東日本大震災『心のケアチーム』
P12 医師養成研修センターを活用しよう！！
P13 定年退職者 代表者2名からのあいさつ
お知らせ コスモスの会
P14 肥前NEWS 肥前バス新旧交代
第21回佐賀児童福祉施設作品展 堂々入賞！！
P15 吉野ヶ里の名所 吉野ヶ里歴史公園
これぞ1枚！シャッターチャンス！！

編集後記

この度の東日本大震災によって被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

事務部 梅山 佑輔

患者様の権利

- 1.安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
- 2.疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利
- 3.治療法を自由に選択し、決定する権利
- 4.プライバシーが守られる権利
- 5.常に人としての尊厳を守られる権利
- 6.医療上の苦情を申し立てる権利
- 7.継続して一貫した医療を受ける権利
- 8.GPLや生活背景に配慮された医療を受ける権利



平成23年6月24日発行

編集・発行:肥前総合情報誌編集委員会(橋本喜、佐伯祐、仲地、原田、城島、有里、山口、三角、中谷、名嘉、山本、面高、佐伯美、佐藤、天野、藤瀬、高木、大坪、鶴丸、宮下、梅山、武田、若杉)

発行所:独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

Tel.0952-52-3231 Fax0952-53-2846

WEB <http://www.hosp.go.jp/~hizen/>